

地域を守る わがまちのヒーローたち



地域防災に欠かせない消防団員も現在では加入者が減少傾向にあり、団員の高齢化などが課題となっています。そんな現状について消防団長にお話を聞きました。また、6月6日の市の消防操法大会で選手宣誓をした現役の団員に入団の経緯を話してもらいました。



地域で火災が発生したとき、消防署の職員とは別に駆けつけてくれる消防団員たちの存在をご存じですか？

彼らは地元の消防団員で、ボランティアで、地域の安心・安全のために尽力しています。ひとたび火災や災害が発生すれば彼らは昼夜を問わず出動し、地域の皆さんの生命・財産を守るために活躍しているのです。

今回、そんな消防団について注目してみました。地域を守るため、仕事や家庭生活の時間を割いて防災に取り組むわがまちの知られざるヒーローたち。その活動の一端をご覧ください。

— 消防団として、今後どのように活動を続けていきますか？ —
わたしたち消防団には、これまで先輩たちが築き上げてこられた歴史と伝統があります。それを絶やすことなく受け継いで、市民生活の安心安全に貢献していきます。これからも自分たちが暮らす地域を守り、住民の皆さんを守るため日々、活動していきます。

— 本市でも団員は減っているんですか？ —
はい。まず、若い人の地域に対する意識や環境が変化してきています。地域とのつながりを持たず、消防団の存在そのものを知らない・関心がない若者が増えていきます。また、少子高齢化という全国的な社会環境の変化などが原因で、本市でも団員の確保は難しくなっています。
— それには、どんな対策が必要だと思いますか？ —
まずは市民に消防団の必要性を再確認してもらい、協力をお願いすることから始まります。安心安全なまちづくりには、市民の皆さん自身のご理解・協力がなければ達成できません。



消防団長
中島健さん(御代志)

消防団の現状と課題

それでも、その活動によって得られる効果はとても大きなものがあり、自身自身を成長させてくれました。これからも近所の若手が集う団体「消防団」を盛り上げて、地域のために頑張りたいと思います。

幼いころからいつも消防団がそばにいました。災害はもちろんのこと、訓練や地域でのイベントなどさまざまな所で見かけました。「いつか自分も消防団に入る」ごく自然にそれを感じ育ちました。わたしは今年で入団9年目、合併などで多少の変化はあったものの、活動内容は幼いころの記憶と何ら変わりません。
消防団は日ごろから防災に努め、各種イベントの貴重な(?)若手人員として参加しています。常に地域と密接に関わることで、防犯に役立ち、近所付き合いもよくなります。合意点も、近所付き合いもよくなります。合意点も、近所付き合いもよくなります。



第4分団
木永耕治さん(上庄)

自分を成長させた消防団



6月6日に行なわれた市消防操法大会。
小型ポンプを使って、的に向けて放水し、選手たちは日ごろの訓練成果を披露しました。

消防団ってどんな組織？

市の消防団は、「合志市消防団条例」に基づいて組織されています。団員は本市に居住、または勤務する年齢満18歳以上の人で構成され、定数は745人となっています。市長に任命された消防団長のもと、二丸となって地域の防災活動に当たっています。団員は消火活動を主とする防災対策を万全とするため、日ごろから訓練に励んでいます。その活動は年間を通じて行なわれ、季節を問わず防災に努めています。

そんな団員たちの訓練の成果を互いに確認し、披露する場となっているのが、春季訓練や消防操法大会などの各種大会です。新年の出初式は、毎年各地でテレビのニュースなどで取り上げられ、一般的にもよく知られています。

しかし、団員の活動は訓練や大会出場ばかりではありません。地元の自治会の要望に応じて、さまざまな活動にも協力しています。

何より、地元で火災が発生した際に一番に駆けつけて消火に当たる団員たちは、地域を守る重要な役割を担っているのです。

取材を終えて

先日、現役の消防署員とお話する機会があり、思い切って質問してみました。「プロの皆さんにとって、地元消防団員はどのくらい役に立っていますか？」

すると、きつぱりとした回答が返ってきました。「消防団員の皆さんは、わたしたちにとってなくてはならない存在です。消防署から駆けつけるわたしたちより、地元にいる団員の皆さんの方が早く消火に取りかれますし、地元を知り尽くした団員さんたちの助けが非常に重要です。鎮火した後も、消防署員には原因調査などの仕事がありますので、現場の片付けや炊き出しをしてくれるのは団員さんなんです。火災現場からまた火が起らないよう一晩中見張りをするのも団員さんたちがやっています。団員の皆さんあってのわたしたちなんです。」

この言葉にハッとさせられるとともに、「消防団員の役目は消防署のお手伝い」と軽く考えていた自分を恥ずかしく思いました。地域の生命・財産を誰より大切に思っているのは、他ならぬ住人たちであり、外部からの助けを待つのではなく自分たちの手で守ろうとする団員の皆さんこそが、わたしたちにとって最も身近で頼りになる存在なのです。いざというときに真っ先に駆けつけてくれる団員の皆さんのご苦勞に、どうか目を向けてください。